

植樹式 1996



時の蘇生・柿の木プロジェクト

3 月 5 日



台東区立柳北公園
(台東区立柳北小学校から移植)
日本・東京都・台東区



台東区立柳北公園（台東区立柳北小学校から移植）

🇯🇵 日本

📍 東京都・台東区

🌱 1996 年 3 月 5 日

プロジェクト第1号として「被爆柿の木2世」が1996年3月5日に台東区立柳北小学校に植樹されました。「被爆柿の木2世」の里親探しの記事を見た3年1組の担任の畠山優子先生と生徒16人の「みんなで柿の木を



育てたい」との思いが実現し、全校行事として植樹式「Meet the KAKI」が実施されました。

子どもたちからは柿の木の命名が行われ、オスの柿の木には「かきカキ君」、メスの木には「夢柿ちゃん」という名前が決定しました。「かきカキ君」の「かき」は被爆した親木のこと、「カキ」は新しく生きていこうとする2世の意味、そして「夢柿ちゃん」には自分たちの夢を託していこうという思いが込められています。そのほかに3年1組の児童と宮島達男により10年後の柿の木を考えるワークショップが行われました。宮島が10年後の柿の木を描いたドローイングにはL.E.D. 数字カウンターがうめこまれ、16名の子どもたちは各2個のL.E.D. にサインをして、そのうちの1個だけを自分の好きな点滅のスピードに調整しました。そして、残りの1個は10年後に再会してスピード調整する約束をしました。



植樹後も子どもたちは積極的に柿の木との交流を続け、

旧3年1組には卒業まで子どもたちだけの「柿の木実行委員会」が存在していました。この実行委員会のメンバーからは、「柿の木を育てて見守っていきたい」、「いやなことがあると、柿の木のことを思い出して頑張る」

といった声が寄せられていました。2001年3月、残念ながら柳北小学校は廃校になりましたが、隣接する柳北公園に移植され、現在も柳北小学校の子どもたちの思い出を留めています。

2006年8月19日に10周年祭「The Harvest of KAKI」が行われ、10年ぶりに柿の木の下で畠山優子先生と13名が集まり、海老沼先生、小池先生、宮島達男、そして実行委員の横山雅美さんなど、大勢の関係者が再会しました。もう成人した青年達の手であの当時残したもう一個のL.E.D. のスピード調整がなされ、柿の木ドローイングは見事完成。実際の柿の木にも、本物のL.E.D. を赤く点灯させ、夏の夜空に「時のクリスマスツリー」を作って柿の木と子どもたちの成長を祝い、再会を喜び合いました。



* 2016年、植樹から20年目に初めて柿の実がなりました。以来、柿の木は2年に1度のペースで実をつけています。